別紙３

みんなで楽しもう！卓球交流会ルール

１　チーム編成

１チーム３名～登録することができる。

２　メンバー表の提出（オーダー用紙の提出）

各チームの監督は、各試合の前にオーダー用紙に選手名を記入し、競技開始前に各試合の主審に提出する。出場選手は、試合毎に変更することができる。
一人の選手が同じ試合で他の試合区分に重複して出場することはできない。

３　ゲームマッチ

３ゲームマッチ

４　競技方法

競技方法については、公式ルールに準ずる。

（１）得点等

ブロック毎の総当たり戦で１１点先取、２ゲーム先取で勝利とする。ただし、両競技者が１０点に達した場合は２点差がついた時点で得点の多いチームを勝ちとする。

（２）サービス

サービス開始時、手のひらを開き一旦制止させる。この時、プレイングサーフェス（卓球台）より高くなければならない。
サーバーはボールに回転を与えることなく、１６ｃｍ以上垂直に投げ上げ、落下する途中を打つものとし、サーバーのコートのエンドライン後方でなくてはならない。
打ったサービスがネットインした場合には、ノーカウントでやり直しとなる。
※ただし、障害特性等により、１６㎝以上あがらない場合は、できる範囲で行う。
ダブルスの場合は、サーバー側コートの右半面にボールをバウンドさせ、レシーバー側コートの右半面にバウンドさせる。

（３）サービス・チェンジ等

サービス・チェンジは２ポイントごとに行い（デュースのときは１ポイントごと交代）、コート・チェンジはゲームが変わる際に行う。ただし、第３ゲームでは、一方の競技者が５ポイント先取した際にコート・チェンジを行う。

（４）ラリー中のルール

・ラリー中にネットインした場合には、ラリーは続く。打ったボールが台の角、エッジ（ふち）に当たった場合もラリーは続く。ただし、ボールが台のサイド（側面）に当たった場合はミスとなる。

・ラケットを持っていない方の手が台についてはいけないが、触れる程度ならよいこととする。

５　競技者への助言及びマナー

競技者はゲームとゲームの間の休憩時間やその他の認められた中断の時には、助言を受けることができる。ボールを取りに行ったとき等には助言を受けられない。

相手競技者に対して不快感を与えるような応援をしてはいけない。

６　休憩

汗を拭くときは、６ポイントごとにタオルを使用することができる。

７　抗議

審判員に対する抗議は認めない。ヤジ、その他は厳禁とする。

審判に誤りがあった場合には、参加者同士で補い合い、修正ややり直しを行う。

８　順位について

各チームの勝敗数でブロック毎の順位を決定する。勝敗が同数の場合、総ポイント数で各順位を決定する。

９　ゼッケンの着用

選手は、選手登録名簿に記載された背番号とチーム名を明記したゼッケンを必ず着用すること。

10　使用球

日本卓球協会公認公式ボール日卓三ツ星ボール「４０ｍｍホワイトボール（プラスチック）」を使用。

11　審判員について

各チームから審判員（副審１名以上）を申告する。

主審は、本部が指定した試合の主審を行う（自チーム以外の試合）。副審は、自チームの試合の副審を行う。

ルールは公式ルールに準ずるが、上記記載のルールを参考にすること。コールに関しては、正式なものではなくてもよい。

副審は、主に得点係を行い、主審が見えない部分において、エッジボールかどうかの判断を行う。